



カンボジアの子どもたちに教科書を

2018年1月 No.63

新年にあたりご挨拶申し上げます

代表理事 江本哲也

日韓アジア基金も皆様の温かいご支援のおかげをもちまして、発足以来、今年で17年となりました。ここで、この間の活動の成果を振り返り今後の会の発展の糧としたいと思います。今後数回に分けて書いていきたいと思えます。それでは第1回です。

1. 2001年会の発足

日韓アジア基金は、日韓の若者が協働してアジアの恵まれない人びとを支援するとともに、その活動を通じて相互に出会い、理解しあいたいという願いから設立された団体です。発案者は当時日本に留学していた韓国人、禹守根でした。2001年に、この禹を代表とする日韓アジア基金が生まれました。

この禹守根代表ですが、2年後アメリカに留学、その後中国に行き数年後残念ながら会の活動から離れることになりました。

2. 最初のカンボジア支援、2003年3月アンロンコン村に識字学校を建設



2003年3月開校式

開校式に集まった村の人々

2003年3月14日、「アジア未来学校」が、プノンペン市ドンカー区アンロンコン・タマイ村において開校されました。式自体は全てカンボジア式で行われましたが、スピーチをクメール語と英語で行なうなど、国際色豊かなイベントとなりました。日・韓・カン三カ国から参加のスタッフ、支援者の方、アンロンコン村民、そして国連や他国のNGOなどカンボジアでの開発に関わる方のご参加

もあり、このような教育の事業が国を越え、全ての大人の責任で行われるべきという私たちの信念に見合う内容であったと思います。これまで違った場所から、様々な形でご協力くださった全ての「アジア市民」、「地球市民」の気持ちが1つにまとまったような、そんな瞬間でした。

2003年9月 学校で元気に学ぶ子供たちの様子です



2003年10月 未来学校の子供が小学校で一番になりました！

13歳のアン・チェンダーちゃんは開校時の2003年4月から2004年9月まで約1年半未来学校に通い、10月にルセイサン小学校に編入しました。



編入学年は第3学年で、これは編入時の試験の結果決められたものです。ルセイサン小学校に移って困ったことは登下校に30分歩かなければならないことくらいで、学校生活そのものは親切な先生と沢山の友だちに囲まれてとても楽しいと言っていました。勉強はどの教科も好きだそうです。教科書にきれいな絵が沢山載っているクメール語(国語)が特に好きだそうです。未来学校で勉強したことがあるとは言え、1学年の飛び級編入でしたので、勉強についていけるかどうか私たちは心配していたのですが、ついていけないどころか、12月の試験では40名の同級生の中で1番になったということでした！

(ちなみに2番、3番も未来学校出身の子どもだったということで、またまた驚きです。)お母さんの手伝いや未来学校に通う妹や弟の面倒みなど毎日忙しかったそうですが、できるだけ長く勉強を続けて、将来は先生になれるように頑張りたいとのことでした。

カンボジア便り

丸山 芳彦

昨年10月に小学校に教科書を寄付しました

カンボジアの小学校は、11月が新年度です。カンボジアでは、教科書は政府が児童数分を確保し、各小学校に置いておく仕組みになっています。教科書は新学期になると、進級してくる次の児童に引き継がれます。しかし、ひどく損傷したり行方不明になってしまう教科書も多く、その補充ができていないのが実情です。その結果、現在カンボジアでは子供達の教科書が足りません。教科書が行き渡らない児童の学力低下や、教科書がないために欠席することが多い児童がいることは、大きな問題になっていました。日韓アジア基金では2009年から不足分の教科書支援を行って、児童の学力向上は勿論、児童の出席率向上にも寄与しており、対象の小学校から感謝されています。

2009年に2校に対する支援からスタートしたこの活動は、現在は11校に増えています。昨年は10月に、合計1550冊の教科書を寄付しました。（前回は1359冊でした）。総額は2567ドルです。11校のうち、1校は現地のNGOが一昨年からの支援を始めたため今年も我々の支援は不要になりました。支援する教科書の数は、9月に現地職員のリティさんが各小学校の先生方にお聞きし相談のうえ決定しています。次頁の表でお判りのように、日韓アジア基金が支援する教科書は、対象全児童4503人に対して1550冊となっています。驚くほど多いと思いませんか？我々は、この活動はカンボジアの教育システムが改善されれば不要になるものと思っていたが、この数年間、予想に



反して支援教科書数は増加しています。理由は多々あると思います

ますが、我々は引き続きこの活動を続けていくつもりです。

学校名	総生徒数	日韓アジア基金が 教科書を寄付した数 2017年10月						
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
1 Preysar	531	15	27	25	44	22	30	163
2 Rakarkor	531	60	57	35	20	15	23	210
3 Trapaingsala	1415	38	40	28	31	16	20	173
4 Preyeng	460	20	30	20	30	30	60	190
5 ToulSambo	0	0	0	0	0	0	0	0
6 Kraingpongro	401	43	36	50	35	35	30	229
7 Saksampov	211	32	38	28	19	18	22	157
8 Watkdol	131	10	10	10	10	10	10	60
9 Prekchrey	150	15	18	7	10	5	9	64
10 RS school	253	15	6	11	9	10	22	73
11 WS school	420	40	25	60	33	42	31	231
合計	4503	288	287	274	241	203	257	1550

ニュースレター発送ボランティアに参加して

会社員 高野 華代

「ボランティアと言っても責任を伴っています。来られなくなった時、遅れる場合、主催する側はきちんと連絡を欲しいものです。そして、一生懸命取り組んでください。」

前回、初めてボランティア活動に参加した時にお話しされたことです。

当たり前のことですが、とても心に響いた言葉でした。作業内容は簡単なものでしたが、参加者の方はこれから社会へ出ていく学生さんが多く、ボランティアに参加する心構えのようなことを伝えている事に感銘を受けました。

以来、「信頼できる団体」という印象を持ち、今回再び参加させていただきました。



発送作業を終わって

心者にはちょうどいいと思いました。

今年は今まで自分が取り組んだことのないことに挑戦したいと思い、ボランティア活動に関心を持っていました。しかし、どんな活動が自分に出来るか分からず、まずはインターネットでボランティアサイトを検索してみました。そこで1番上に出てきたのが、日韓アジア基金さんです。活動日は休日で、半日で終了、

ニュースレターの発送という内容は初

ただ半日とは言っても、年齢も性別も様々な知らない人ばかりの中での作業には不安がありました。

当日は学生さんが多く、場違いなところへ来てしまったかなと思いましたが、スタッフの方が分け隔てなく接して下さるので、気持ちよく作業することができました。希望者には作業の後、スタッフとの昼食会もあり、半日と言ってもとても楽しく、充実した時間を過ごすことができました。

同じ作業を通し、知らない人同士が協力しあって交流を広げることがボランティア精神に繋がることだと感じています。

数あるボランティア団体の中で、偶然インターネットの検索で知ることになった日韓アジア基金さんですが、参加できる時にはいつでも快く受け入れてもらえそうな雰囲気を感じています。また参加させてもらえれば嬉しいです。

ボランティアは精神的にも肉体的にも余裕がなければできないことだと思うので、健康には十分気を付けて、皆様の活動が末永くアットホームな雰囲気で継続されることを願っています。ありがとうございました。

グローバル・フェスタのボランティア活動を通じて

高校生 祇園 匠

以前から僕は国際協力関係のボランティアに興味を抱いていました。そんな中ふっと目に映ったのがこの日韓アジア基金の GF2017 のブースのスタッフのボランティアでした。ボランティアは何回かやった経験はありましたが、当日の朝は無性に緊張の気持ちを抱いていました。正直自分でもなぜかわからなかったのですが、確かに緊張していたのはよく覚えています。僕が主に取り組んだのは募金活動。今まで募金活動の経験のない僕にとっては、何をしていたかわからず戸惑いを隠せませんでした。それに最初は驚くほど募金が集まらないことに焦りも感じました。しかし時間が経つにつれて慣れと共に自分の中でやり方を工夫していくと、自信が付き最終的には苦労が楽しみに変わっていました。

今回2日間の GF2017 にボランティアとして参加させていただいて、沢山のことを



学ぶことができました。その一つに普段僕たちが日常で関わる人と国籍、人種が違ってても別に大した変わりはなく同じであるということを改めて感じました。ごく当たり前のことで今頃何を言っているんだと思うこともありますが、募金活動をしている時、フリータイムに他のブースを見学している時、肌の色が違ったり、言語

が違う人たちを大勢見かけました。その人たちを見ていると何ら違和感を感じず、

むしろ話しかけてみたいとか、仲良くなって 募金や活動説明に頑張りましたみたいという気持ちになったのを憶えています。近年街中でも外国人を見かけることが多々ありますが、その時とはまた違った気持です。生まれた場所、文化が違って僕たちと毎日同じような生活を営んでいる、つまり人は人であるということです。

一方カンボジアの子供のようにまだまだ苦しんでいる人は世界に大勢います。またそんな人たちのために日々力になっている人も僕の目に留まりました。人のために何かをしようとする人々がこんなにも多くいるということに気づけたことも、僕の中での成長ではないかと思えます。自分も近い将来、今この世界に生きている人間として、人の力になれる人間でありたいと強く感じます。今回のボランティアは僕の大きな財産になりました。そんな素晴らしい体験をさせていただいた皆さんに感謝をし、僕の感想としたいと思えます。本当にありがとうございました。

初めてのボランティア

三上知慧

私は、ボランティアをした経験がありませんでした。このボランティアは国際貢献をすると聞いたので参加しました。

ボランティアの活動内容は、ABK（アジア文化会館）で毎年行われる秋祭りでお客さんに韓国茶のサービスをしながら、教科書が足りないカンボジアの子供たちの支援のため募金をしてもらったり、パンフレットを配って、興味を示した人には日韓アジア基金の活動内容を説明する、ということでした。

ボランティアを始めたとき、私はしっかりと活動できるかどうか心配で、緊張してしまいました。けれど、優しいまわりのスタッフの方々に教えてもらいな



がら一生懸命活動をしてみて、だんだん緊張がほぐれていきました。

すると、少しずつボランティアが楽しくなってきたのです。休憩時間さえも、もったいなく感じました。そしてボランティアにもどると、とても大きな喜びが、私の心の中に芽生えました。私にはボランティア活動をする時間が終了するとき、名残惜しく感じられました。なぜなら、ボランティアを通して、私の中の「何か」が変わったからだと思えます。

初めてボランティア活動をして、気付いたことが二つあります。一番最初に思

ったことは、ボランティアは良い活動だということです。今回だけではありません。いろいろな種類のボランティア全てに共通していること、それは「たくさんの方の役に立てる」ことです。子供たちに教科書が届くことを思うと、私も幸せになれるのです。

二つ目に気付いたことは、ボランティアは楽しいということです。ボランティアは「大変なだけじゃないか」と思う人もいるかもしれませんが、でも、大変だからこそ「やってよかった」「楽しかった」と大きなやりがいを感じられるのではないのでしょうか。

このボランティアに参加しなければ、私はいつまでもこのことには気付かなかったでしょう。今回参加して本当に良かったと思います。

大澤龍さんを悼む



昨年12月20日、当会の大澤龍理事が亡くなりました。

75歳でした。

大澤さんはいすゞ自動車株式会社を退職後、学生を主体として設立された発足当初の当会を「経験のあるシニア」として支え、若い方たちを援助・指導しながら理事のひとりとして長年にわたって、運営に参加してきました。会計管理・NPOとしての法的組織の整備を担当する一方、こまごました雑事も引き受け、とくにボランティアやイベント活動では常に現場責任者として積極的に活躍し、若い方たちに声をかけました。大澤さんの分け隔てなく接する快活で親しみやすい人柄と、フットワーク軽くあらゆる弱者のために尽くそうとする生き方に触れて、その後の生き方や就職先を決めた人も数多く、悲報に接してその死を悼む声が多く聴かれました。謹んでご冥福を祈ります。 **日韓アジア基金理事・スタッフ一同**

私が長年日韓アジア基金の活動にかかわっているなかで、大澤さんが亡くなった事は本当に悲しいニュースです。大澤さんに癌があると聞いたときに、私はとても心配で、いつかこの悪い知らせがあるのではないかと恐れていました。私の母も11年前にがんで亡くなりました。我々は本当に大切な人を失ってしまいました。私は大澤さんと数回お会いしました。その時は私たちはそれほど沢山は話しませんでした。私には大澤さんがとても良い方であることが判りました。私は大澤さんと電子メールを通じて長い間一緒に働くことができとても幸せでした。

大澤さんはカンボジアの子供たちの教育を支援し、亡くなった時は、母校の大学病院にご自分の体を献体されました。私は大澤さんに大きな敬意を表したいと思います。大澤さんの奥様、日韓アジア基金の皆さんに深い哀悼の意を表したいと思います。大澤さんのご冥福をお祈りいたします。

カンボジアより Pot Rithy

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方 (敬称略・順不同)

2017年9月10日ニュースレター62号 発送作業 (23名)

水谷充徳・須田莉央・山崎藍・國井柚希・森麻奈歌・民野由佳・神田菜緒・堀内美和・堀内終弥・堀内真由美・豊田彩乃・桑原苑子・金リナ・笹谷由佳・川口廣起・高野華代・海老沼大輝・有賀すずな・稲垣瑞恵・蕪山乃菜・千葉まゆみ・大澤龍・丸山芳彦

2017年9月30日、10月1日グローバルフェスタブーススタッフ (7名)

祇園匠・三国萌恵・水谷充徳・柳明姫・千葉まゆみ・丸山芳彦・斉藤乃章

2017年10月21日 アジア文化会館秋祭りブーススタッフ (6名)

三上琢・三上知慧・稲垣瑞恵・千葉まゆみ・柳明姫・丸山芳彦

2017年8月22日～2017年11月24日に会費・ご寄付を下さった方 (敬称略・順不同)

川崎由紀子	芝村篤樹	森 健造	松本 忠雄	中川 敦司	高橋 周孝
堀内 和子	塚本美和子	武之内教男	伊藤 潤	丸山 芳彦	木下 マスミ
内尾亜津子	福島 悟	小谷 壮平	広瀬 隆利	福本 正勝	丹羽 真幸
米村 典子	野中 純	チャンセレイロット	江本 哲也	松田 えり子	

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費5,000円(学生、未成年者2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者1口2,000円)
法人会員:年会費1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

郵便振替口座
支店名 ○一九(セロイチキウ)店
口座番号 当座 00180-2-25153
口座名義 日韓アジア基金
(カタカナ表記 ニツカンアジアキン)

活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

賛助会員:定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

T e l : 090-5812-1471(庶務・会計担当 斉藤) FAX : 03-3946-7599 (ABK)

E-メール : nikka17@iloveasia2.sakura.ne.jp

HP: <http://www.iloveasiafund.com>

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也